

目的 快適さのみを求めるのではなく、ヒトの健康に関与する衣服の在り方を追求する為には、現代人の着衣実態を把握する必要性が生じてきた。そこで演者らは、対象を現代の女子大学生に絞ってその実態を探り、実情を把握して、衣生活における着衣の科学的考察を行うべく、本調査研究を実施した。若干の成績を得たので報告する。

方法 調査は1986年6月～1987年6月の13ヵ月間、京阪神に居住する健康な女子大学生（18～19才）を対象とし、約125名について追跡調査を行い、毎月中旬に調査用紙を配布し、記入せしめた。調査内容の概要は、1)年齢、身長、体重 2)気温、湿度、暖房冷房の有無、寒暑感覚等 3)衣服重量、衿開き、袖丈、衣服丈、材質、デザイン等 4)靴下手袋等、類被服の重量、材質、デザイン 5)靴類、傘類の重量、である。以上の項目における調査結果を集計し、検討を行った。

結果 1)単位体表面積（1㎡）当たりの衣服重量は、屋外では向寒期に増加し、向暖期に減少するが、屋内では二極化の傾向を示し、10～5月は平均708.4g/㎡、6～9月は平均332.9g/㎡である。肩重量も同様の傾向を示すが、腰重量では屋内の年間変化が小で、平均342.5gである。2)寒暑感覚の温熱感は屋内屋外差が大で、点数差が2.0点以上の月は6,7,11,12,1,2,3月である。湿潤感の年間変化は温熱感に比し小であり、屋内の変化は更に小で、年間平均3.06点である。快適感では、屋内屋外差が0.5点以上と大であるのは7,8,11,12,1,2,3月、小であるのは9,10,4,5月である。これらについて更に検討し、報告する。